

# 山頭火ふるさと館報

第7号  
令和3年11月

さんとうかうまれる  
く新たな旅へく

一般社団法人防府観光コンベンション協会

山頭火ふるさと館

館長 中村 浩典



今年四月から、山頭火ふるさと館長を拝命いたしました中村浩典と申します。

微力ではございますが、当館の発展と充実に向け、専心努力してまいる所存ですのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

ご周知のように山頭火ふるさと館は、平成二十九年十月七日に公益財団法人防府市文化振興財団の指定管理のもとに開館し、四年が経過しました。

この間、郷土出身の俳人種田山頭火の顕彰、また種田山頭火及び関連する人物に関する資料の収集、保管及び展示、さらにはその調査・研究を通じて市民の教養、文化の向上に努めるとともに、地域の振興にも寄与してきています。

今年度からは、一般社団法人防府観光コンベンション協会を指定管理者とする新たなスタートを切ることになりましたが、開館以降これまでに培ってきた格調高き文学館としての成果と実績を損なうことなく、「さんとうかうまれるく新たな旅へ」をキャッチフレーズに、防府の生んだ漂泊の俳人種田山頭火の魅力をより一層発信していきたいと考えております。老若を問わず幅広い年齢層の方々にご来館いただけるよう企画内容や運営方法に創意工夫を凝らしながら、多くの人から愛される山頭火ふるさと館をめざしてまいります。

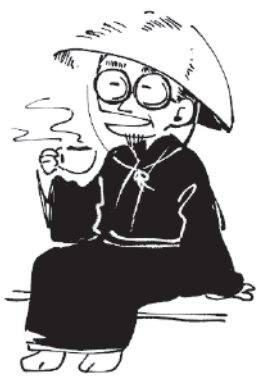
さて、報道関係の方からの取材で「山頭火の句の中でお気に入りの句は…」とよく聞かれます。その際にはいつも、「あるがまま雑草として芽をふく」と答えています。この句は其中庵時代に詠んだ句で、第四句集「雑草風景」の中に収められています。其中庵の周辺にたくましく生え伸びる雑草に自分を重ね合わせて詠んでいる句です。決して背伸びすることなく、また自分を飾ることなく自然体で生きることの素晴らしさ、心地よさをしみじみと詠んでいるように感じます。「雑草風景」の巻末で、「私は雑草的存在にすぎないけれどそれで満ち足りてゐる。雑草は雑草として、生え伸び咲き実り、そして枯れ

## 目次

館長挨拶	1
寄稿「郷土が誇る「文芸の発信拠点」を目指して」	2
企画展「全国津々浦々 山頭火の句碑をめぐる」	2・3
防府市内句碑巡り	3
山頭火・自由律句講座	3
書道コンクール	4
常設展示「追悼 那須正幹」	4
「山頭火」句碑建立について	5
親子ワークショップ	5
収蔵資料紹介	6・7
資料受け入れ報告	7
今後の企画展情報	7
今月の一句アーカイブ	8

てしまへばそれでよろしいのである」と綴っています。まさに、自分は自分であり、周囲に左右されることなく自分らしく生きることの大切さを教えてくれているように感じ、私はずっとこの句を大切にしています。

結びにあたり、山頭火の魅力を一人でも多くの人に知っていただくとともに、山頭火を取り巻くネットワークがさらに広がっていくよう職員一同努力してまいりますので、今後ともご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。



ごあいさつ  
郷土が誇る「文芸の発信拠点」  
を目指して

一般社団法人防府観光コンベンション協会  
会長 羽嶋 秀一



平素から当協会の事業推進にご理解を賜り、厚くお礼申し上げます。

私ども一般社団法人防府観光コンベンション協会は、令和三年四月から山頭火ふるさと館の指定管理者として当館の運営を行わせていただいております。

当協会は、「交流人口の倍増」を大目標に掲げ、交流人口の拡大に資する諸事業を展開することで、地域に賑わい・活気を創出し、もって地域活性化の一助となることを活動の理念としております。

千年を超える歴史や海川山の豊かな自然は、「地域の宝」であり、この恵まれた風土を背景に、優れた文化・芸術が育まれてきことは、郷土の誇りです。

私たちは、これらの魅力を国内外に発信することで、多くの皆様がこの地にお越しいただき、心ゆくまで防府をお楽しみいただきたいと願っております。

こうした中、「漂泊の俳人」として全国的な知名度を有する種田山頭火を顕彰する施設の運営をさせていただくことは、この上ない喜びです。

「歴史」、「自然」、「食」に、「文化・芸術」分野の魅力が加わることで、事業展開に奥行きが広がり、様々な層に防府の魅力をお伝えできるようになりました。

また当協会は、防府市観光交流・回遊拠点施設「まちの駅うめてらす」の指定管理も担っており、隣接する両館の立地を活かした運営の工夫を行ってまいります。

四月の運営開始以降、新型コロナウイルス感染症拡大防止に細心の注意を払いながら、企画展の開催や、教育普及活動、交流事業を数々と展開しております。一時的な臨時休館や、館内施設の利用制限をする中で、ご来館いただく全ての皆様に安全・安心な滞在環境を提供させていただきました。

山頭火ふるさと館には、素晴らしい魅力が詰まっております。

私自身も、当館を訪れるたびに山頭火と自由律俳句の魅力に新たな発見があり、その発見は次なる事業展開の「アイデア」の源泉となっております。

特に、山頭火が生きた大正の時代背景は、令和の時代を生きる私たちには、どこか新鮮さを感じます。当協会が推進する「大正ロマンのまちづくり」にもご期待ください。

来年は、開館五周年を迎えるとともに、種田山頭火生誕一四〇年の節目の年を迎えます。このような好機を逃すことなく、皆様に親しまれる施設づくりを目指してまいります。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

企画展  
「全国津々浦々  
山頭火の句碑をめぐる」

開催期間

令和三年四月十日(土)～六月二十七日(日)

※五月十三日(木)～五月三十一日(月)は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館



自由律俳人種田山頭火の句碑は、北は北海道から南は鹿児島まで各地に建てられ、その数は現在五〇〇基を超えています。これだけの数の句碑が建っているのは、山頭火が全国各地に足跡を残した証であり、同時に多くの人が山頭火に魅せられ、継承してきた証でもあります。

今回は、『句碑』の写真や『句碑拓本』を、その句の背景にある山頭火の言葉とともにご紹介しました。

句碑の写真は、放浪の旅に出発したときの句「分け入つても分け入つても青い山」の句碑から、句を詠んだ年代順に、亡くなる一か月前の「濁れる水のながれつゝ澄む」の句碑まで計十四点展示。さらに、句碑になった句の直筆資料や、句碑から採った「拓

本」も展示し、句碑から伝わる山頭火の句の魅力をご覧いただきました。  
また、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、YouTubeにてオンラインギャラリートークを配信しました。

【展示資料一覧】

高千穂神社(宮崎県高千穂町)裏参道句碑写真(分け入つても分け入つても青い山)(撮影:田原寛)／臨濟宗隣船寺(福岡県宗像市境内)句碑写真(松はみな枝垂れて南無観世音)(撮影:田原寛)／曹洞宗味取観音堂(熊本県熊本市)参道句碑写真(松はみな枝垂れて南無観世音)(撮影:田原寛)／大分県由布市(湯平駅前)句碑写真(しぐるゝや人のなさに涙ぐむ)(撮影:田原寛)／宮床山ノ神集会所(福岡県田川郡糸田町)句碑写真(枝をさしのべてある冬木)(撮影:田原寛)／九州成田山不動寺(福岡県遠賀郡岡垣町)境内句碑写真(鉄鉢の中へも霰)(撮影:田原寛)／【拓本軸装】鉄鉢の中へも霰(種田山頭火)／防府天満宮(山口県防府市)裏遊園句碑写真(ふるさととははだして木の芽)(撮影:田原寛)／【拓本軸装】雨ふるふるさととははだして木の芽(拓本:水落龍勝、揮毫:種田山頭火)／戎が森公園(山口県防府市)句碑写真(雨ふるふるさと)である(拓本:種田山頭火)／清内路峠茶屋 七々平(長野県阿智村)句碑写真(山ふかく露のとうなら咲いてある)(撮影:田原寛)／播州山頭火句碑の園(兵庫県高砂市)句碑写真(生えて伸びて咲いてある幸福)(撮影:田原寛)／つぼみ荘(香川県さぬき市)裏庭句碑写真(うれいこともかなしいことも草しげる)(撮影:田原寛)／【扇子】うれいこともかなしいことも草しげる種田山頭火)／【拓本軸装】山あれば山を観る(拓本:水落龍勝、揮毫:種田山頭火)／小郡文化資料館(山口県山口市)前句碑写真(空若竹のなやみなし)(撮影:田原寛)／曹洞宗永平寺(福井県永平寺町)参道入口句碑写真(てふてふひらひらいかを(た)(撮影:田原寛)／一草庵(愛媛県松山市)句碑写真(濁れる水の流れて澄む)(撮影:田原寛)／【短冊レプリカ】濁れる水の流れて澄む(種田山頭火)

展示風景



防府市内句碑巡り

開催日時

令和三年五月八日(土)

雨の心配も日焼けの心配もいらない、散策にはちょうどよいお天気の中、市内外から十名の方に参加いただき、山頭火ふるさと館周辺の句碑を巡り歩きました。

当日初めて顔を合わせた参加者の皆様も常時和気あいあいとした雰囲気、山頭火が実際に通学した「山頭火の小径」を歩き、ときには真剣に句碑に見入つていらつしやいました。

当日巡つた句碑は以下のとおりです。

- ・山頭火の小径
- ・生家跡「うまれた家はあとかたもないほうたる」
- ・ア・ホテル前「あたゝかく人も空も」
- ・戎ヶ森公園「雨ふる故里ははだしであるく」
- ・防府駅前「ふるさとの水のみ水をあび」
- ・アスピラート前
- ・「ふるさとや
- ・少年の口笛と
- ・あとやさき」
- ・佛光堂前
- ・「生えて伸びて
- ・咲いてある幸福」
- ・松崎小学校校門
- ・「ふるさとの学校の
- ・からたちの花」

戎ヶ森公園での様子



山頭火・自由律句講座

山頭火を学ぶ会

六月から十月まで毎月第三水曜日開催

今年度は「ふるさと」をテーマに、当館学芸員による「山頭火の日記を読む」、当館初代館長の西田稔先生による「種田山頭火とふるさと」、防府図書館司書の花田咲絵先生による「山頭火の俳句を読む」、当館館長による「山頭火の心を見つめる」を実施。また、山頭火の小径を通つて護国寺に出かけ、橋本隆道住職の案内で山頭火の資料や句碑等を見学しました。

自由律句を学ぶ会

六月から十月まで毎月第二水曜日開催

令和三年度は昨年度に引き続き富永鳩山先生を講師にお迎えし、前期は八名の受講生が講座に参加されました。山頭火の句をとおして自由律俳句について詳しい説明があつた他、事前に受講生が作った俳句の添削や感想を述べるコーナーもありました。受講生の皆様は自分の句や他の方の句について真摯に意図や感想を述べられていました。

自由律句で遊ぶ

毎月第四土曜日開催

本講座は門田美和子先生を講師にお迎えし、小中学生を対象に自由律俳句について楽しく学ぶ講座です。令和三年度はこれまでに六、七、九、十月の計四回開催しました。今回参加してくれた子どもたちは初回からさっそく沢山の自由律俳句を作つて、子ども同士で見せ合つたり、先生からアドバイスをもらつたりして楽しそうに句作に取り組んでいきます。また、山頭火かるたと一緒に遊び、より山頭火の句に親しみを感じてもらっています。

# 令和三年年度 書道コンクール

応募期間：令和三年八月一日～九月八日  
審査員：小・中・高等学校教育研究会国語・書道  
研修部の先生方四名

市内の小学生から高校生を対象に、山頭火にちなんだ言葉課題として書道作品を募集しました。部門を五つに分け、小学校一・二年生「みち」、三・四年生「ほうたる」、五・六年生「旅路」、中学生「山頭火」、高校生「ふるさと」の学校のからたちの花」を書道で表現してもらいました。応募数七八九点の中から各部門、市長賞(最優秀賞)一名、教育長賞(優秀賞)一名、山頭火ふるさと館長賞(優秀賞)一名、佳作二名ずつ(高校の部はなし)、計二十三名が選ばれました。表彰式は新型コロナウィルス感染防止のため開催しませんでした。  
受賞者は以下のとおりです。

- |            |          |         |         |
|------------|----------|---------|---------|
| 小学校一・二年生の部 | 市長賞      | 大形あつし   | 佐波小学校二年 |
| 教育長賞       | 岩崎杏菜     | 小野小学校二年 |         |
| 館長賞        | さとうしろうせい | 勝間小学校二年 |         |
| 佳作         | さないせいら   | 松崎小学校一年 |         |
|            | のちせいな    | 中関小学校一年 |         |
| 小学校三・四年生の部 | 市長賞      | 中河聖桜    | 右田小学校三年 |
| 教育長賞       | 矢田明希     | 牟礼小学校四年 |         |
| 館長賞        | 有富美空     | 右田小学校三年 |         |
| 佳作         | 弘中美咲     | 牟礼小学校四年 |         |
|            | 松田拓也     | 松崎小学校四年 |         |

- |            |       |         |         |
|------------|-------|---------|---------|
| 小学校五・六年生の部 | 市長賞   | 有富圭遼    | 右田小学校五年 |
| 教育長賞       | 渡邊陽依  | 佐波小学校六年 |         |
| 館長賞        | 木村璃音  | 中関小学校六年 |         |
| 佳作         | 工藤千華子 | 勝間小学校六年 |         |
|            | 福富唯菜  | 勝間小学校六年 |         |

- |       |       |         |         |
|-------|-------|---------|---------|
| 中学生の部 | 市長賞   | 境菜々花    | 右田中学校三年 |
| 教育長賞  | 岸野心海  | 華陽中学校一年 |         |
| 館長賞   | 藤村公次郎 | 牟礼中学校三年 |         |
| 佳作    | 背戸零   | 大道中学校三年 |         |
|       | 町田有里恵 | 華陽中学校三年 |         |

- |       |      |          |          |
|-------|------|----------|----------|
| 高校生の部 | 市長賞  | 松田彩花     | 防府高等学校三年 |
| 教育長賞  | 田中亜実 |          |          |
| 館長賞   | 松田桃果 | 防府高等学校三年 |          |
|       |      | 誠英高等学校一年 |          |

受賞作品展示風景



## 常設展示 「追悼 那須正幹」

令和三年七月二十二日、防府市在住の児童文学作家、那須正幹先生がご逝去されました。このたびは、児童文学界における多大な業績と、防府市の文化振興に対する大きな功績をたたえ、当館所蔵の資料を公開しています。  
山頭火ふるさと館では、「防府市ゆかりの文藝家たち」コーナーでのパネル展示、また平成三十一年の企画展「山頭火を書いた現代人」において、大変お世話になりました。  
謹んでお悔やみ申し上げますとともに、哀悼の意を表します。

【展示資料一覧】  
那須正幹『それいけズツコケ三人組』(ポプラ社、昭和五十五年三月)／  
【色紙】ほろほろ酔うて木の葉ふる(那須正幹書、平成十四年)／【色紙】まつすぐな道でさみしい(那須正幹書、平成十四年)／『群妙』創刊号(自由律俳句クラブ「群妙」、平成十九年六月)／『群妙』第三十号(自由律句壇クラブ「群妙」、令和三年六月)

展示風景



# 山頭火句碑建立について

今年十月七日、防府市制施行八十五周年を記念して山頭火ふるさと館に山頭火句碑が建立されました。この句碑は、市内在住の塚原 明様からご寄贈いただいたもので、山頭火ふるさと館東側の広場に設置させていただきました。ご寄贈を賜りました塚原 明様には衷心より感謝申し上げます。十月七日は山頭火ふるさと館の開館四周年の日でもあり、館の歴史に新たな一ページを加えることができました。この句碑を山頭火頭彰の象徴として、また防府市民の宝としていつまでも大切にしていまいる所存です。

なお、句の選定にあたっては、山頭火が「ふるさと」を詠んだ句の中から五句をあらかじめ当館において選定し、これを市内の小学校五・六年生及び中学生のオンライン投票により決定するという方法で行いました。

まず、候補となる五つの句については、山頭火が「防府で詠んでいること」、「市内で句碑になっていること」、「情景が浮かびやすく、リズム感のよい佳句であること」を基準に選定しました。以下が候補となった句です。

- ① うぶすなの宮はお祭りのかざり
- ② 汽車も春風のふるさとのなか
- ③ おもひでは汐みちてくるふるさとの渡し
- ④ 日の落ちる方へ水のながれる方へ  
ふるさとをあゆむ
- ⑤ 故郷にて  
蛭ちらほらおもひだすことも

オンライン投票の結果、最も得票数が多かったのが、「④ 日の落ちる方へ水のながれる方へふるさとをあゆむ」でした。この句は昭和九年十一月二十一日、山頭火が防府天満宮の御神幸祭の日に、其中庵から防府を訪れた時の句であり、生まれ育ったふるさとの風景を懐かしみながら歩いている様子を詠んでいます。また、この日の日記には、「宮市は私の故郷の故郷である。」と記しており、ふるさとへの愛着の深さを感じ取ることができます。

句が決定したのち、句碑の寄贈者である塚原 明様に揮毫をお願いし、句碑の完成に至りました。

この句碑建立に合わせて、当館では関連イベントとして「山頭火の句碑をめぐる ふるさとシールラリー」を十月七日から十一月七日まで開催いたします。山頭火生家跡や天神山公園など、山頭火ふるさと館の近くにある句碑をめぐる、ゴールを山頭火ふるさと館の句碑とする内容です。参加者には、句碑近隣の公共施設でそれぞれの句碑の写真入りシールを配布します。このシールを順次台紙に貼り付け、四か所以上を回られた方全員に参加賞をお渡ししています。多くの参加者があり、山頭火、そして山頭火の句の魅力が、句碑を通じて味わっていただいています。

句碑「日の落ちる方へ水のながれる方へ  
ふるさとをあゆむ」



夏休み特別イベント  
親子でワークショップ  
自由律俳句にチャレンジ！  
夏の水彩絵ハガキを  
つくってみよう！

日時：七月三十一日(土)、八月七日(土)、八月二十一日(土)

小学生の親子を対象としてお題に沿った自由律俳句に挑戦してもらい、作った俳句の周りを水彩画で彩ってオリジナルハガキを作るワークショップを行いました。初回のお題は「うみ、やま」、二回目は「なつもの」、三回目は「おまつり」です。

はじめに子ども向けの自由律俳句講座を行いました。自由律俳句は小学生には少し難しかったようですが、知っている俳句を教えてくれたり、定型俳句と自由律俳句の違いをしっかりと聞いてくれたりと、とても熱心に取り組みました。また、子どもだけでなく、大人の方もたくさん自由律俳句を詠んでくださいました。なかなか五七五のリズムが抜けきらず、苦戦している様子でした。

ハガキ作りでは水彩のコツを学びながら作った句にちなんだイラストを描いてもらいました。学年によっては授業で水彩道具を使う頻度が少ないらしく、着色に少しためらっている子どももいましたが、気に入った絵が上手に描けたようです。また、同じものを親子で相談なしに描いていた組もいらつしやり、たいへん盛り上がりました。



## 収蔵資料紹介

【池原魚眠洞宛て 太田蛙堂書簡】

凡例

- 一、旧字体は新字体に改めた。
- 二、適宜句点を補った。

封筒表(消印 飯田・昭和九年四月二十七日)

愛知県津島町池の堂 池原魚眠様

封筒裏

長野県下伊那郡飯田吾妻二 太田蛙堂

昭和九年四月廿六日

表

啓

四月廿五日出の御書翰拝見ありがたう存じました。山頭火翁は鉢の子を

抱へて名古屋を發たれ木曾路に入り然

も二日の雨に濡れ通しにぬれて炭

焼き通ひの清内路峠を越へられて

かつて無い水の味を感じつゝ去る十五日午後

二時頃私の処へ来て下さいました。恰度

此日は第三日曜で私達の龍の会例会の

観桜句会でありました為私是不在であり

ました。翁よりは何のたよりもありませんでした

が大橋蓮子さんからの端書を十四日朝

の配達で受取ましたので知りましたからもつ

けの幸とばかり来訪直様今宮公園

中の花月庵へ御迎へ申しました。会

員皆喜悅萬面で賑やく互選など

いたして後山翁に短評を願つたりして然て酒宴に移りました。翁はお酒が好きですから皆で御進めしたのでした。酒満をひいて帰る頃は六時を過ぎて居ました。翁は帰路すでに震ひを起し寒くて

ならないといふので皆急足度で私宅迄送

つて来てそれから直様床を伸べて休ま

せました。皆の者は戻りました。翌十六日

は発熱しました。雨にぬれて来たからいけな

かつたといふ言葉のもとに風邪と心得とんぶ

くを差上げて寝かして様子を見て居

たのです。十六日の夜は熱が高まるやうだから

案じまして医師をお進めしたのです。最

初は遠慮してなにぢき癒りますと申

風邪だから寝てさへ居れば大丈夫なを

りますと云いますがどうも肋骨がいた

いゝゝとなりませぬ故変でなりませんか

ら私の最も心易い松井医師を呼んで見

て貰いました。注射を一時置きに四本と

たて続けてしてくれました。私の弟は電気

療院をして居ますので弟に来て貰いま

して家内と私と三人で寝ずに湿布をし

ました。肋膜炎は湿布のよろしきを得

なければけないといふのですから一生

裏

懸命に人事を尽したのであります。

医師は私に竊にいふに年とつて居ら

るゝやうだから先以て危険だ大事にし

ておあげなさいといふ断案を下され

ました。依て私は其時すでに山頭火翁

の骨を拾ふことを覚悟しました。家

内にも申口めまして私の身に因縁の有

る謂所翁につながるそうしたことを感じ

心尽しの出来るだけをいたして居るわ

けであります。翁は金の問題に就い

てはお救ひ下さる方がありまして二君から三十円来ました。二人の医師に相談の上川島病院へ入院させたのであります。毎日注射を一本づゝやりましてそれから入院いたしてからは医師の看護婦さんが手を添

へて呉れまして医師のいふ通りエキシカ

湿布を一日二回づゝ取替へまして誠に経

過がよろしいのであります。廿一日二日は三

十八度まで昇りましたが其明る日廿三日

は三十六度三分廿四日は又三十七度にな

り廿五日は下りまして三十六度といふ

平静までに落付きました。昨日も今

日も変らなくなりまして先此分ならば大

安度を得ることゝなりました。一時ぼろゝ

の身体をどうすることも出来なく翁の知友

へ出す書面を代筆で通知しましたが昨

日から今日も翁がペンを取ることが出来ます

ので重ねて知友にはがきを出されまし

た。私が喜んで小僧役をつとめて居ります。

兎に角世の中は相見互ひの押したり押

されたりするゆかいな脈膊が動いて居る

ものであります。先山頭火翁については

御案神をして下さい。廿八日頃は退院出

来ます。そして月末には其中庵へ帰

るといふて居られます。大体を御知らせ

して置きます。乱筆御判読を願ひ

ます。さよなら

昭和九年四月廿六日

池原魚眠様

何でもかんでも帰るといふので旅費を取寄せたのですが帰れぬやうになりました。

解説

太田蛙堂は長野県飯田の、池原魚眠洞は愛知県津島の『層雲』同人。

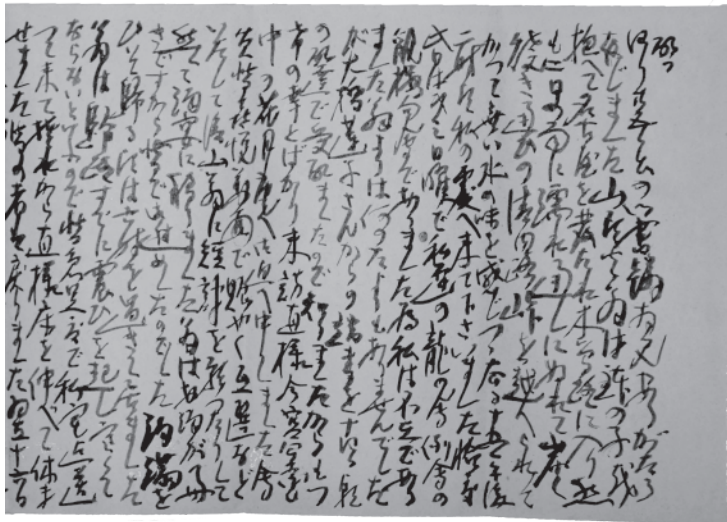
「山頭火ふるさと館報第六号」で翻刻・紹介した葉書より前に出された書簡で、山頭火が昭和九年三月に小郡の其中庵を出発した旅の途中、飯田で肺炎を患い、一週間ほど入院した際の様子が事細かに書かれている。冒頭では、魚眠洞からの手紙に対してお礼を述べており、山頭火が肺炎を患ったという第一報はすでに送っていたようである。魚眠洞には山頭火の様子を逐一報告していたらしい。山頭火が旅の途上、飯田に着く前にお世話になった同人たちに知らせたかったのだろう。それを蛙堂が「小僧役」として代筆していたのだと考えられる。

蛙堂は『層雲』主宰の萩原井泉水にも同様の書簡を出していたようで、その文面は『層雲』第二十四巻第三号(昭和九年七月)に掲載されている。

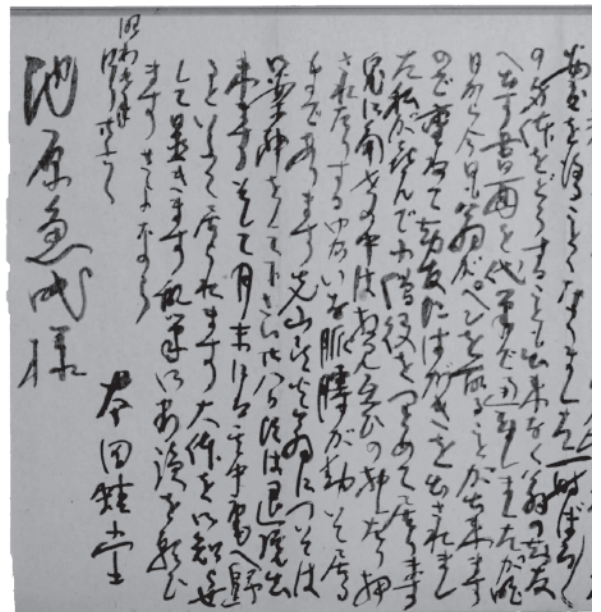
魚眠洞宛ても井泉水宛ても、どちらも非常に詳しく、山頭火が飯田に来た様子や病状を記しており、蛙堂が山頭火に尽くしていた様子が分かる。蛙堂は『層雲』誌面上で活躍していた山頭火を知っていただろうが、このときが初対面である。初めて会った人にこれだけ懸命に尽くす献身ぶりを見ると、当時それだけ山頭火が『層雲』の中で輝かしい存在であったのだろうと推測できる。

(山頭火ふるさと館学芸員・高張優子)

表面(部分)



裏面(部分)



### 図書・資料受け入れ報告

今年度四月から八月までの間に寄贈いただいた資料をご紹介します。

#### 寄贈

ZPO法人まつやま山頭火倶楽部「鉢の子」編集局様より『高橋さんの話』北川淳一郎、春陽堂書店様より『新編 山頭火全集 第三巻』(種田山頭火)、山岡光子氏より『山頭火没後五十年記念テレホンカード』

#### 御著編書

兼崎人士氏『沢瀉の紋章の影に』(吉田紗美子・兼崎人士)『地橙孫写真集』(兼崎人士)、「青穂」事務室様『青穂』四〇号・四十一号、富永鳩山氏『自由律俳句クラブ群妙』第三〇号『群妙30号記念自選句集』

### 今後の企画展情報

生誕一〇〇年記念 秋山巖原画展  
 拜啓山頭火さま

版画家・秋山巖は、山頭火を題材とした作品を多く残しました。棟方志功を師としていた秋山巖が山頭火に出会ったのは一九七一年、五十歳の時。山頭火の句に衝撃を受けた秋山は、山頭火にのめり込み、山頭火の句の世界を版画で表現し始めました。このたびは、秋山巖生誕一〇〇年を記念して、版画の下絵として描かれた原画を一挙公開いたします。版画家・秋山巖が描いた山頭火の句の世界をどうぞお楽しみください。

#### 会期

前期：令和三年十月二十二日(金)  
 ～令和四年一月十二日(水)  
 後期：令和四年一月十五日(土)～三月十三日(日)

型破りだけど憎めない—山頭火の俳句や人生を版画で表現。

山頭火ふるさと館 生誕100年記念

## 秋山巖原画展

拜啓山頭火さま

前期 令和3年10月22日(金) ～ 令和4年1月12日(水)  
 後期 令和4年1月15日(土) ～ 令和4年3月13日(日)

観覧料 無料

# 今月の一句アーカイブ

山頭火ふるさと館では毎月山頭火の句を一句選んで皆様にご紹介しています。これまでに「ご紹介した「今月の一句」を振り返ります。

令和三年

四月 星がまたたく旅をつづけてきてゐる

昭和七年四月

昭和六年末に九州の巡礼を始め、福岡で詠んだ句です。「つづけてゐる」ではなく「つづけてきてゐる」と詠んでおり、ふと星空を見上げたときに思い起こしたこれまでの旅が、過去からずっと続いている長い旅であることを強調しています。ひとつの場所に長く留まらず歩き続ける山頭火の旅の、計り知れない果てしなさを感ぜられる一句です。

五月 伸びぬいて筍の青空

昭和八年五月

小郡の其中庵に前年九月に落ち着いて初めて迎えた春に詠んだ句です。「筍の青空」という言葉によって、たけのこが勢いよく成長する様子を、伸びていく先の青空を自分のものにするようだという風に大胆に捉えています。青空に焦点があり、低いアングルからたけのこを見上げ、その先に青空が広がっているような映像が浮かびます。

六月 梅雨晴れの山がちどまり青田がかさなり

昭和七年六月

川棚温泉の木下旅館に宿泊している六月十八日に詠まれたものです。「山がちどまり」という表現は、緑の濃くなってきた

山が近くに見えたことをこのように詠んだのでしよう。室内で過ごす日々が続いた後に見た梅雨晴れの青空、緑鮮やかな山、そしてそれを映す田植えがなされたばかりの田が、まるで一枚の絵のように切り取られた一句です。

七月 夕立晴の花をたづねてあるく

昭和八年七月

句の「夕立晴」は夕立によって昼間の暑さが引き、澄んだ晴れ模様になる様子が浮かぶ夏の季語です。「花をたづねて」という表現からは、道中に咲いている花を見ることが、山頭火にとつて歩く楽しみの一つだったのではないかと想像できます。夕立の去った後のすがすがしさの中に、野に咲く花々への親しみが感じられる一句です。

八月 腹いっぱい飲んで寝るふるさとの水

昭和九年八月

昭和九年八月、佐野に住んでいる妹シツを訪ねたときの句です。「腹いっぱい」は、お腹が膨れるまで水を飲んだというより、家族との時間を過ごし、満腹感を得られるほど心も満たされたという意味合いに受け取ることができます。妹の家を訪れ、変わらずに美味しいふるさとの水を飲むことで、満ち足りた気持ちになれたのかもしれない。

九月 霧島は霧にかくれて赤とんぼ

昭和五年九月

昭和五年九月二十一日、宮崎県を行乞していた頃に詠まれた句です。掲句には「霧にかくれて」とありますが、前日に「霧島に見とれてれば赤とんぼ」という句を詠んでいます。前日の句を踏まえると、昨日と同じように飛んでいる赤とんぼの様子が、昨日の美しい霧島を霧の向こうに思い起こさせた、と読み取れる一句です。

# 山頭火ふるさと館のご案内

## 開館時間

午前十時～午後六時

(ただし、特別企画展の開催中は、展示室への入室は午後五時三十分まで)

## 休館日

毎週火曜日(祝日の場合は次の平日)

十二月二十六日～十二月三十一日まで

## 観覧料

無料

※なお、特別企画展を開催する際、観覧料を設ける場合があります。

## アクセス

防府駅てんじんぐちから約一・五km

まちの駅「うめてらす」から約一〇〇m

山陽自動車道防府東・西ICより約七分

## 駐車場

普通車用三台、身障者等用二台(ふるさと館横)

無料観光駐車場二十五台(ふるさと館斜前)

# 山頭火ふるさと館報

第7号

令和3年11月1日発行

編集・発行

一般社団法人

防府観光コンベンション協会

山頭火ふるさと館

747-0032

山口県防府市宮市町5番13号

電話 0835-28-3107

FAX 0835-28-3113